

《原 著》

分化型甲状腺癌肺転移に対する ^{131}I 治療成績

治療効果や生存率等に影響する因子の検討

小野 優子* 山本 由佳* 西山 佳宏* 中野 寛*
高橋 一枝* 川崎 幸子** 佐藤 功* 大川 元臣*
田邊 正忠*

* 香川医科大学医学部放射線医学講座

** 麻田総合病院放射線科

要旨 分化型甲状腺癌術後肺転移のある 51 例 (乳頭腺癌 41 例, 濾胞腺癌 10 例) において, ^{131}I 内用療法の一時的治療効果や生存率等に影響する因子 (性別, 年齢, 組織型, 肺転移のサイズ, ^{201}Tl , ^{131}I 診断量, 治療量の肺転移への集積の有無, サイログロブリン値, 肺以外の転移の有無) について検討した.

^{131}I 治療量で肺への集積を認めたのは 51 例中 25 例で, 40 歳未満, 濾胞腺癌で有意に集積を認めた. 一時的治療効果を認めたのは 51 例中 13 例で, 40 歳未満, ^{131}I の肺転移への集積あり, 肺以外の転移を有する群に有意に良好であった. 濾胞腺癌は Coarse type (直径 > 5 mm) が多く, ^{131}I の集積が良好であった. ^{131}I 治療量の肺転移への集積ありの群は有意に生存期間の延長を認めた.

分化型甲状腺癌肺転移に対する ^{131}I 内用療法の一時的治療効果や生存率に影響を及ぼす因子として, ^{131}I の肺転移への集積の有無, 年齢, 肺以外の転移の有無が関与すると考えられた.

(核医学 37: 661-670, 2000)